月　日 名前

／100点

【答え】

【中3】国語 文章問題　物語文 I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

進路希望調査の紙は、もう一週間も机の引き出しに入ったままだった。第一志望、第二志望。四角い空らんを見るたびに、ぼくは引き出しを閉めた。

兄は、ぼくと同じ中学から、地元でいちばんの進学校に進んだ。母は、ぼくも当然そこを受けるものだと思っている。先生も、成績を見て「十分ねらえる」と言った。ぼくだけが、その学校の名前を書く手を止めていた。

ぼくには、行ってみたい学校があった。電車で一時間かかる工業高校だ。夏休みに兄の自転車を直したとき、分解した部品が元どおりにはまっていく感じが、たまらなく楽しかった。あの学校には、機械を一から組み立てる授業があると聞いていた。

けれども、それを口にする勇気がなかった。「もったいない」と言われるに決まっている。そう思うと、自分の気持ちまで、もったいないもののように思えてきた。

提出の前の晩、ぼくは台所にいた兄に、ぽつりと聞いた。

「兄ちゃんは、なんであの高校にしたの。」

兄は、冷蔵庫を開けたまま少し考えた。「みんながそうしろって言ったからかな。」それから、ぼくの顔を見て付け足した。「別に後悔はしてないけど、自分で決めたって感じも、あんまりないんだよな。」

ぼくは黙って部屋にもどり、引き出しから紙を取り出した。第一志望の空らんに、工業高校の名前を書いた。書いてみると、思っていたよりも字はまっすぐだった。

明日、母には何と言おう。まだ言葉は決まっていない。けれども、この一行だけは、自分で決めたと胸を張って言える気がした。ぼくは紙を丁寧に折って、かばんにしまった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ぼくが工業高校に行きたいと思うきっかけになった出来事を、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

夏休みに兄の自転車を直した

問二　ぼくは、工業高校に行きたいと言えば、周りから何と言われると思っていましたか。本文中から六字で抜き出しなさい。

もったいない

問三　兄の「自分で決めたって感じも、あんまりないんだよな」という言葉を聞いて、ぼくが気づいたこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　兄のように、周りの言うとおりにするのがいちばん安全だということ。
イ　周りに言われて決めるのではなく、自分で決めることが大切だということ。
ウ　兄は進学校に行ったことを後悔していて、かわいそうだということ。
エ　兄に相談しても、何の役にも立たないということ。

イ

問四　「思っていたよりも字はまっすぐだった」とありますが、ここからぼくのどんな気持ちが読み取れますか。五十字以内で説明しなさい。

迷っていた志望を自分で決めて書いたことで、気持ちが定まり、落ち着いた気持ち。

問五　最後の段落から読み取れる、ぼくの気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　母に反対されるのがこわくて、紙を出すのをやめようと思っている。
イ　母にどう伝えるかはまだ決まっていないが、自分で決めた志望には自信を持っている。
ウ　母はきっと賛成してくれると信じて、安心している。
エ　工業高校に決めたことを、早くも後悔し始めている。

イ

【中3】国語 文章問題　物語文 Ⅰ　答えと解説

問一（二十点）　答え：夏休みに兄の自転車を直した

解説：第三段落が根拠。部品が元どおりにはまっていく感じが楽しかったことが、機械を組み立てる授業への興味につながっている。

問二（二十点）　答え：もったいない

解説：第四段落の「『もったいない』と言われるに決まっている」が根拠。成績で進学校をねらえるのに、という周りの見方を予想している。

問三（二十点）　答え：イ

解説：兄の言葉のあと、ぼくは黙って工業高校の名前を書き、「自分で決めたと胸を張って言える」と感じている。ウは兄の「別に後悔はしてない」と合わない。

問四（二十点）　答えの例：迷っていた志望を自分で決めて書いたことで、気持ちが定まり、落ち着いた気持ち。

解説：一週間も書けなかった空らんに、ついに自分の意思で書いた場面。字がふるえずまっすぐだったことが、心の落ち着きを表している。

採点のポイント：① 迷っていた志望を、自分で決めて書いた　② 気持ちが定まり、落ち着いた（迷いがなくなった）（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点）　答え：イ

解説：「まだ言葉は決まっていない。けれども、この一行だけは、自分で決めたと胸を張って言える気がした」が根拠。紙を丁寧に折ってかばんにしまったのは、出すつもりだから。